



はじめ君、今年初泳ぎ。おしり丸出しで浸かっています。この後「じいも一緒に入ろう！」というので、ビールを片手にザブンと私も入りました。気持ちいい～(^_-)

最近のはじめ君は、大人言葉を使って話すのでますます面白いです。



この本は、赤ちゃんが母親のおなかの中にいるときの「胎内記憶」と誕生の時の記憶、そして、生まれてくる前の「中間生の記憶」について書かれている本です。私は、池川先生のサイン入りの本を持っています。読みたい方は貸し出します。

池川先生は、著書や自前のホームページでお子さんからの「胎内記憶」について多くの情報を集めています。その中でも驚きなのが、赤ちゃんはお母さんを選んで生まれてくるという「中間生の記憶」です。中間生記憶というのは、別の人間として生きた前世を終えてから、今のお母さんの胎内に宿る直前までいた記憶のことです。

「空の上で、ママとパパを選んだよ」
4歳になる子の話「ママのお腹に入るとき、本当は他のお母さんを選ぼうと思ってたんだけど、その人が怖い顔をして怒っているのを見たからやめて、優しそうなママに決めただよ！それで、透明な青い光になって、ママのお腹にピューッと入ったの。」子供達がお母さんを選ぶナンバーワンは、「優しそうだっただから」そして、次に人気があるのは、泣いていたり寂しそうだったりして、生きるのがつらそうなお母さんだそうです。

りゅうすけ君は、「どうしてお母さんを選んだのかな？」と聞くと、「お母さんが泣いてて寂しそうだっただから。ボクが来たら笑ってくれると思ったの。」虐待するお母さんを選んだ子は、「ゆがんだ家庭に和をもたらしたい。」と思い、病気になることを選んだ子は「治すのが面白そうだったから」とお母さんに語ったそうです。

赤ちゃんが、お母さんを選んで産まれてくるとしたら…また、お父さんとお母さんの状況を見ながら、天から舞い降りてくるとしたら、ステキですね！そう思うだけで幸せな気持ちになれます。「選んでくれてありがとう！生まれてくれてありがとう！それだけで感謝します。」
＼(´o`)／今度ははじめ君にも聞いてみよう。



7月18日の読売新聞一面です。新型出生前診断というのは、妊婦の血液を採取して胎児のDNA断片を解析、ダウン症など3種類の染色体異常を調べる検査です。

受診した妊婦は1534人で、27～47歳平均38.3歳。受診理由は高齢出産(お母さん35歳以上)が

94.1%と大半を占めました。結果は、29人が陽性(染色体異常)、1502人が陰性、3人が判定保留です。

陽性の内、21番染色体の異常のあるダウン症が16人、心臓疾患などを伴う18番染色体異常が13人となりました。陽性反応がでた妊婦は、確定診断を受けることができる選択があります。流産の可能性があるので、お腹に針を刺して子宮内の羊水を採取する羊水検査か、胎盤組織を採取する絨毛検査です。

陽性反応の29人の内、確定診断を受けた妊婦は10人で、異常が確定されたのは6人いました。内訳は、ダウン症3人、心臓疾患3人で、うち2人が中絶を選択しました。

この新型出生前診断って、どう思います？この試みは、指定18施設で1000人目標で実施されたようですが、1.5倍もの受診がありました。私は、この新聞の一面を見て池川クリニック院長著「ママを守るために生まれてきたよ！」の本を思い出しました。